

父兄諸君に訴ふ

この左のストライキに就て貴下の情子息及自心子、若くは弟妹諸君の自前上、また今後に
 深く御憂多思のこと、お察しあげます。
 就ては、出版労働組合共同印刷所争議團として、組合員の父兄母姉諸賢に對して、今
 回のストライキについて、一應その立場を申しあげておきます。
 この左のストライキは、まづたく会社から吾々従業員に喧嘩を賣つて来たものでありま
 して、会社が社会主義者が従業員を煽動したからだといふのは眞赤な嘘であります。
 会社は、今日の八日、突如として、鉄工、鋳造、貯田の約三百名の従業員に對し、一日おきに出勤し
 ると命令したのであります。しかし、吾々は七月に十五日くらゐの給料を貰つたので、食つて行けな
 いのは、分ることです。つまり、体裁のよい、そして手當をくれない、給料を貰つたので、食つて行けな
 いといふのであります。
 そして、その首切りは、会社は不景氣だをかりて、他の才、ごだん、やらうといふ計画であることを、
 吾々従業員代表である組合専部には見抜きまゝして、非常に憤慨したのであります。
 いかし、出来れば、おだやかに平和に解決した方が、から組合としては、皆が合はつてゆけるやうに
 首切りしないで済むやうに、他に会社も、他の方面から経費節減が出来ると考へて、
 三百名のうちから七十名だけを他の科へ廻して、他の科で足りない人手を補足する案を出したのです。
 すると、会社は一度でへたつたのです。それで、吾々は怒り、三百名の諸君の給料二割
 才値下げすることを承諾して、首切りをせよといふ様に交渉したのであります。
 と、ところが、会社としては、これでも駄目だといふのです。吾々従業員代表は、それ勸解が
 出来なくなつたのです。会社はまづこのストライキをやらせやうと、最初から仕向けたのです。
 会社は不景氣を々々だといひますか、少し儲けが少なくなつたからとて、景氣の好い時は、
 逆行あたりは、百に数千圓の純利益をあげたではないですか。
 会社の専務取締役は吾々に對して、當面会社は管利會社で儲かりなうなれば止すことは
 當然だといひますが、それはあまりに人情を欠いた仕打ちでありまうまいか。

浪
 波
 の
 多
 量
 の
 去
 る
 勢
 多
 量
 の
 去
 る
 勢